
音符が紡ぐ関係

羅針

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

音符が紡ぐ関係

【Nコード】

N3025Z

【作者名】

羅針

【あらすじ】

恋愛小説です よろしくお願いします

「ふぁ」

起きる。眠い。時計を見る

< 8 : 0 0 >

ヤバイ……寝過ごした

「nooooooooooooo」

んま、サボろうかな……

でもとりあえず遅刻するか。

今日も聴けるかもしれないしな

（回想）

忘れ物取りに行かなきゃ、

あれ？教室から音楽が……

「あなたとなら、未来が切り拓ける気がするから」

「なんだ？」

小糸恵がそこにいた

赤い髪のロングヘアを流しギター片手に目を瞑って楽しそうに歌っている

「うわぁ！？」

「なにしてんだ？」

「作曲……聴いた？」

少し臆病で引つ込み思案なこいつが歌、しかも作曲に興味あるとは。

「少しだけな」

「うわぁ恥ずかしい……」

「そうか？上手いと思うぜ俺は。」

「……そう？」

「うん」

俺は机においてあった地理の教材を持って帰った

宿題をしなければならぬとかそういうのではない。

この落書きを先公に見られるわけにはいかない……

「またな」

「うん」

〈回想終了〉

あいつとは中学校以来の付き合いだな。

今は高校2年でバイトもしている

あいつは学校に来なくなってきた。

理由は歌手活動がうまく回り始めているらしい。

俺の知ってる曲にも「作詞：小糸 恵」の曲は10曲近く入っている

ライブも見に行ったことがある。というか学校で流行ってるから

友達付き合いで連れて行かれた。

そこには学校では見た事のない、いつかの放課後にみた楽しそうな顔が踊っていた。

タレントとしてもテレビに出て、儲けは俺たちの数倍どころでは無いだろう。

学校でも何度も隣の席になって楽しそうに歌の話をしていたのを覚えてる。

学校に着く。隣の席には赤髪のロングヘアの子が座っている

「おはよう……」

「ん、おはよう」

「おいお前遅刻届は？」

「始めて遅刻したもので……」

「常習犯の癖によくいう。本当に退学になるぞ？」

「へいへーい」

小糸はクスクス笑っている

職員室に行き遅刻届をもらった

先生に提出。1時間目が始まっていた

国語科かぁダルイ

小糸はペンをくるくるしている。左手は4拍をタンタン叩いている。いつでも音楽を忘れないすばらしい信念の持ち主だ

「そこ。トントントン五月蠅いぞ」

「はい」

止めた よく見ると足で音が鳴らないようにまた4拍とっている
たまに早くなったり遅くなったり、眺めているだけで楽しい

「そこ。授業に集中！」

「へーい」

今度はこつちが眺められる番になった。

↓放課後↓

ああー国語科の教科書に落書きしすぎたなぁ先公に見られるのは痛いなぁ

学校にUターン

教室では音楽が聞こえてきた

「あれ？小泉君？」

「よう 教室じゃぁ盗み聞きされるぞ？」

その曲は……《あなたに送る唄》だな？」

「知ってるんだ？」

「まあな 結構上手いと思うぞ？」

そう言つて机からこくこの教科書を取った

「この曲 ある人に送りたいくて……作つたんだ」

「へえー だれ？」

教えてくれるわけ無いか

「小泉君」

「へえー……え？」

「つつ」

「俺？ 冗談はよせよ」

「本当だよ？ ずっと……私の曲をほめてくれた初めての人だから。」

」

「いいのか？ 俺で」

「うん」

「それじゃ歌ってくれよ その曲。」

「ふえ？ 恥ずかしいよ」

「そ。」

「ええ！ 待つて」

「用は無いでしょ？」

「いや……だから……その……えと……返事を……」

「それじゃあな 遊ぼうぜ！」

「今日一日？」

「そう 残りの放課後！ エンジョイしようぜ！」

「え……うん」

それから俺らは公園に来た

追いかけてこをした。 高校生にもなって幼稚いかもしれないけど
これが結構面白かった

「はあはあ こんなに運動したのは久しぶりだよ」

「そーだな」

「それで？ 付き合ってくれる？」

「お前の走りに免じて、付き合つてやる」

「えへへ」

そう俺は気付いてしまった。 《あなたに送る唄》にこめられた思い
を……

(後書き)

《あなたに送る唄》

ある日の夜^よ そこに居た

見とれてしまった あなたの眼に

真っ直ぐな眼で 見つめられる

あなたは私の思いを知っているんだろうか？

いつか告げられる日が来ると祈るよ

サビ この日から 日常が変わった

サビ 今の時間が 終わらなければいいのに

サビ ずっとずっと 思っているよ

サビ 皆が居なくなっても私はあなたを選ぶ

最後 あなたとなら、未来が切り拓ける気がするから

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3025z/>

音符が紡ぐ関係

2011年12月10日18時50分発行